

田川市立病院 VOL19 秋号/2017

ニュースレター

第8回 市民公開講座 全国自治体病院協議会 邊見公雄会長が特別講演

田川市病院事業管理者 齋藤 貴生

恒例の市民公開講座は、平成22年度に開始されて以来8年目を迎え、「大きく変わる地域医療」をメイン・テーマとして、平成29年10月24日に開催されました。今回は、市立病院が「病院再生」を成就したことを記念し、全国自治体病院協議会会長の邊見公雄先生を特別講演の演者にお迎えしました。

邊見会長は、「生命(いのち)輝かそう田川市民」と題して、これから大きく変わろうとする地域医療を念頭におき、自治体病院が進むべき方向性を示されるとともに、自院での取組について熱く語り、聴衆に大きな感動を与えられました。冒頭に、私の考えとして、人口減少に直面する我が国、とくに地方の将来に触れ、地域存続の必要条件は医療と教育、一次産業であると述べられ、また、医師不足については、院長・幹部職員の仕事は、一に医師集め、二に医師集め、三四がなくて、五に医師集めと喝破されました。

社会保障と税の一体改革、第6次医療法改正に始まる一連の医療提供体制の改革が開始されるなか、特に地域医療構想および公立病院改革プランにおける公立病院の主体的な取組の必要性を強調されました。病院の再編統合の事例も紹介されました。次いで、自治体病院の今後のあり方として、赤穂市民病院における取組みと成果を紹介されながら、チーム医療の大切さを「いろはカルタ」形式で示して説明されました。また、今後重要となる住民中心の病院づくりについては、新しい観点からのボランティア、病院学会・病院祭などを紹介されました。

田川市立病院からは、「皆で築こう田川の医療」と題して、私から報告を行いました。まず、「病院再生」については、平成22年度から28年度までの7年間の取組と成果をご報告し、再生成就について謝意を表ささせていただきました。次いで、田川地域における医療の向上、特に医療の完結化に向けた「田川地域医療機関ネットワーク化協議会」の活動を述べ、最後に、「まちづくりに合わせた医療の拠点づくり」について紹介しました。これは、市立病院が田川地域のまちづくりに協力し、まちづくりに合わせた医療の拠点づくりを目指そうとする新たな試みです。



邊見 公雄 会長



平成29年度 総合医学会

～地域包括ケアシステムについて～



総合医学会準備委員会委員長 河村 康司

当院では、平成22年度から全職員を対象として教育・研修・研究を総合的に推進することを目的に総合医学会を開催しています。年間テーマを定め、それに沿った3回の例会と総会を開催し、各職種の知識、相互理解を深めるとともに、医療の向上を目指しています。

平成29年度は「地域包括ケアシステムについて」をテーマとし、このテーマに関する知識を深めるために、平成29年7月31日に第1回例会を行いました。講師として、地域包括ケアシステムに造詣の深い九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座 専攻長・教授の馬場園明先生を迎え「地域包括ケアの理論と実践」と題して講演をしていただきました。

馬場園先生は、地域包括ケアシステムとは「要介護者が介護施設に入所して集団的ケアを受けるのではなく、本人の住まいに外部から医療や介護サービスを定期的に提供する仕組み」のことである。そこで、生活支援、健康支援、介護・医療サービスを提供する複合施設と自立型、支援型、介護型高齢者住宅および高齢者住宅をネットワークで結び、地域包括ケアシステムの機能を満たす高齢者健康コミュニティを作らなければならない。そのための課題として、施設ケア中心の方針から在宅ケア中心の方針へ転換していかなければならないことを国民全体で認識する必要があるということなどを話しました。

今後は、診療部門や看護部門、医療技術部門が取組を発表していく予定です。



馬場園 明先生

外来化学療法室を設置しました



当院では食道がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、膵臓がん、胆道がん、乳がん、肺がん、腎臓がん、膀胱がん、前立腺がん、子宮がん、卵巣がんなどの治療に化学療法を行っています。

新しい抗がん剤である分子標的薬などの登場により、最近のがん化学療法の進歩は目覚ましく、副作用対策も進み、大半の治療が通院で行えるようになりました。そこで、外来化学療法を安全、安心、快適に受けていただくため専用の治療室を設置しました。



外来化学療法担当のチーム(医師、看護師、薬剤師)が協力し、安全・安心な治療を行います。がん化学療法において熟練した看護技術と知識を有するがん化学療法認定看護師が患者さんの状態を見守り、副作用対策に務めます。お薬のこと、副作用の症状や対応など様々な疑問・質問にお答えします。

さらに、プライバシーが守られた環境で、リクライニングチェアにて快適に、また、テレビを観ながらリラックスした状態で点滴治療を受けていただくことができます。

ロコモティブシンドロームにならないために

～転倒予防で大腿骨近位部骨折を防ぐ～

年々高齢化社会が進んでいくなかで、最近、ロコモティブシンドロームが注目されています。ロコモティブシンドロームとは、骨・関節・筋肉などの運動器(ロコモティブオーガンの)障害で、日常生活に必要な「体を動かす能力」が低下し、生活の自立度が下がる状態のことをいいます。この状態になると日常生活における自立度が低下して介護が必要になったり、寝たきり、メタボリックシンドローム、認知症などを引き起こす可能性も高くなります。

現在介護が必要となった原因として、平成25年の国民生活基礎調査によると骨折・転倒(11.8%)、関節疾患(10.9%)と報告されており、5人に1人が運動器の疾患で介護が必要な状態となっています。

こういった現状のなかで、特にロコモティブシンドローム(生活の自立度の低下)に直結する骨折として大腿骨近位部骨折があります。股関節の付け根の骨折であり、高齢の方の転倒で折れやすい場所となっています。腕の骨折とは違い、痛みで歩けなくなってしまいますし、歩くためには手術、そして手術後のリハビリが必要となります。厚生労働省の調べによると1週間寝たきりで筋力の20%が低下し、また、1日の臥床で落ちた筋力を回復するのに1週間かかり、1週間の臥床で落ちた筋力を回復するのに1か月かかるといわれています。もちろん当院では早期手術、早期離床を心がけていますが、どうしても筋力の低下は避けられません。



整形外科 部長 久枝 啓史

そこで、一番重要なのは転倒の予防になると思います。転倒しない体づくりのためにも、運動、食事など日常生活の改善が第1になります。無理な運動や、高価な器具を使う必要はありません。ウォーキングやストレッチ、ラジオ体操、水泳などを自分の体力に合わせて無理なく継続することが大切です。また、食事でも偏った食事を行わず、骨や筋肉を作るのに必要なタンパク質やカルシウム、ビタミンなど摂取することが望ましいです。

そして、骨粗しょう症の治療も大事な要因の一つとなります。加齢に伴い避けられない疾患となっていますので、日常生活で骨を強くするためには適度な運動と、カルシウムやビタミンDの摂取、また、日光を浴びることが望ましいです。しかし、日常生活だけでの骨粗しょう症予防は難しいこともありますので、気になる方はいつでもご相談ください。

当院産婦人科の紹介

～もっと身近に、もっと気軽に～

産婦人科を受診することに対して、恥ずかしい・怖い・他の人に知られたくないなどなかなか行きにくいと思われる方がいるかと思います。もっと気軽に受診してもらえようご紹介させていただきます。

産婦人科は産科と婦人科というほぼ別の診療科が一緒になっている不思議な診療科です。

まず、産科についてですが、産婦人科を舞台にした人気ドラマ「コウノドリ」のセリフでもありましたが、産科は生命の誕生という患者さんにおめでとうが言える唯一の診療科です。妊娠中や分娩に関する不安な気持ちや様々な体調の変化について、医師・助産師をはじめスタッフが親身になって対応し、安心・安全なお産をしてもらえるよう日々努力しています。現在、産婦人科は常勤の医師が4人在籍しており、分娩については毎日2人の医師が待機し24時間対応の診療を行っています。分娩件数は年間約300件台で推移しており、きめ細かい対応が可能となっています。



産婦人科 医長 宮崎 順秀

婦人科については腫瘍専門医、内視鏡技術認定医が在籍しており、良性疾患(子宮筋腫、卵巣嚢胞など)から悪性疾患(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌など)まで幅広く対応可能です。良性疾患については、適応を考慮しつつお腹を切らない腹腔鏡手術も行っており、腹腔鏡検査や卵巣嚢腫摘出術から子宮全摘出術まで行っています。最近では、子宮脱手術の際に卵巣摘出希望があれば腔式と併用して行っています。また、大都市圏の病院では手術予約が3か月や6か月先ということもありますが、それほど待たずに手術を受けられる点も当院のメリットです。

些細なことでもかまいません。気になる症状がありましたら気軽に相談してください。

田川市立病院 外来診療担当医

外来診療受付時間 8:30~11:00

休診日 日曜日・祝日・年末年始(12月29日~1月3日)

平成29年12月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	土
循環器内科	新患	—	桑田 孝一	兼田 吉紹	浅田 哲史 (非常勤)	仲 悠太郎	当番医 (新患のみ)
	再来	仲 悠太郎 兼田 吉紹	松島 将士 (九州大学)	船越 公太 (九州大学)	桑田 孝一 細川 和也 (九州大学)	—	
消化器内科	新患	平野 昭和	高津 典孝	平塚 裕晃 (福岡大学筑紫病院)	大藏 裕子	小野 貴大	
	再来	—	平野 昭和	小野 貴大	高津 典孝	—	
腎臓内科	新患	大仲 正太郎	—	吉田 健	辻川 浩明 (九州大学)	末永 達也	
	再来	末永 達也	大仲 正太郎	—	—	吉田 健	
糖尿病内分泌内科	新患	—	—	—	牧村 啓晃	—	
	再来	池田 陽介 (九州大学)	岡本 実里 (九州大学)	妊娠糖尿病外来 牧村 啓晃 (第1-3) 井林 雄太 (九州大学) 名誉院長 池田 喜彦 (第4のみ)	—	牧村 啓晃	
脳血管内科	新患 再来	—	—	芝原 友也 (九州大学)	—	—	
呼吸器内科	新患 (要予約) 再来	—	田中 謙太郎 (九州大学)	—	—	—	
肝臓内科	新患 再来	稲田 浩気 (九州大学)	徳松 誠 (九州大学) 伊原 諒 (福岡大学筑紫病院)	—	—	—	
神経内科	新患 (要予約) 再来	—	—	磯部 紀子 (九州大学)	—	—	
内科	新患 再来	—	—	—	—	中国 和利 (高梁医科大学)	
緩和ケア内科	新患 再来	河村 康司	—	—	河村 康司	—	
小児科	新患 再来	尾上 泰弘	倉田 浩昭	村岡 衛	倉田 浩昭	尾上 泰弘	当番医
	再来	循環器外来 (第4午後) 濱本 邦洋 (非常勤)	腎臓外来 (第4午後) 尾上 泰弘	血液・免疫・ワクチン外来 (第4午後) 大賀 正一 (九州大学) 血液・免疫・ワクチン外来 (第1-3午後) 高田 英俊 (九州大学)	—	神経外来 (第1午後) 非常勤医師 (九州大学)	神経外来 (第3午前) 非常勤医師 (九州大学)
外科	新患	松隈 哲人	鴻江 俊治	丸山 晴司	鴻江 俊治	廣瀬 皓介	当番医
	再来	中ノ子 智徳	丸山 晴司	廣瀬 皓介	中ノ子 智徳 血管外科外来 (第2・4) 非常勤医師 (九州大学)	松隈 哲人	休診
呼吸器外科	新患 再来	—	非常勤医師 (九州大学)	—	—	—	休診
整形外科	新患 再来	久枝 啓史 新井 貴之 遠矢 政和 (九州大学)	久枝 啓史 石橋 正二郎 綾部 裕介	石橋 正二郎 新井 貴之	久枝 啓史 新井 貴之 馬場 寛 (九州大学)	久枝 啓史 石橋 正二郎 綾部 裕介	当番医
	再来	—	名誉副院長 張 瑞棠	—	名誉副院長 張 瑞棠	名誉副院長 張 瑞棠	—
形成外科	新患 再来	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	休診
皮膚科	新患 再来	分山 英子	分山 英子	分山 英子	分山 英子	分山 英子	休診
泌尿器科	新患 再来	石田 浩三 坪内 洋明	石田 浩三 坪内 洋明	石田 浩三	坪内 洋明	石田 浩三 坪内 洋明	当番医
産婦人科	産科 (妊婦検診)	—	藤田 拓司	宮崎 順秀	椎名 隆次	川上 稷	休診
	婦人科 新患	川上 稷	宮崎 順秀	椎名 隆次	藤田 拓司 川上 稷	交替	
	婦人科 再来	交替 藤田 拓司	椎名 隆次	川上 稷 清木場 亮 (九州大学)	宮崎 順秀	藤田 拓司	
眼科	新患 再来	永戸 天	永戸 天 塩瀬 聡美 (九州大学)	永戸 天 立花 崇 (九州大学)	永戸 天	永戸 天	休診
耳鼻咽喉科	新患 再来	非常勤医師 (福岡大学)	非常勤医師 (産業医科大学)	—	非常勤医師 (福岡大学)	—	非常勤医師 (産業医科大学)
総合診療科	新患 再来	河村 康司	—	—	河村 康司	—	—
麻酔科	新患 (要予約)	術前診察 荒木 建三	—	疼痛 小山 稷	疼痛・術前診察 小山 稷	—	休診
	再来	—	疼痛 小山 稷 荒木 建三	透視下ブロック 小山 稷	—	疼痛 小山 稷 荒木 建三	
歯科・ 歯科口腔外科	新患 再来	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	当番医

新患 新しく受診される患者さん 再来 当院を受診され、予約をしている患者さん 小児科夜間診療時間(受付時間): 平日の18:00~21:30

アクセス

JR+
平成筑豊鉄道

JR田川後藤寺駅→JR田川伊田駅
 平成筑豊鉄道田川伊田線→田川市立病院駅
 ※田川市立病院駅からは無料の連絡バスが
 出ています。

西鉄バス
後藤寺(金田平原団地行き)→田川市立病院

**田川市
コミュニティバス**

路線① 坂谷・田川病院線 ※後藤寺で②へ乗り換え
 路線② 大浦・弓削田線
 路線③ 伊加利・松原線
 路線④ 鎮西・金川線
 路線⑤ 施設循環線 ※伊田駅前③か④へ乗り換え
 路線⑥ 白鳥工業団地線 ※伊田駅前③か④へ乗り換え